

# みずの通信

2021. 2

東京商工リサーチによると、丑年に設立された法人は、現在、全国で 206,429 社、うち一番歴史が古いのは、1877 年設立の十六銀行だそうです。第 2 位が 1889 年設立の日本盛、1 位と 2 位の差は 12 年ですから、ダントツの 1 位です。

岐阜市の和菓子老舗の「おきなや」(美殿町) が 155 年の歴史を閉じ、2021 年 1 月 10 日に一旦閉店しました。休業ではなく閉店とありました。155 年というと 1866 年、十六銀行設立の 11 年前に創業ということになります。「香梅」に引き続き、岐阜の名店がまた一つなくなりました。

NHK 番組によると、明智光秀は生き延びて岐阜県山県市に逃げ戻ったとの説があるようです。身代わりとなった部下の荒木の荒の字をとって、荒深とその後名乗ったというのです。荒深さんは明智光秀の末裔なのですね。この説、親しみがわきます。

年末年始は巣ごもり状態でしたので、Prime video をたくさん観ました。  
「祈りの幕が下りるとき」、「翳りゆく夏」全 5 回、「トクソウ」全 5 回、どれも外れなく、面白いです。特にお勧めは、「The Witch 魔女」です。設定およびストーリーはありきたりで新味はありませんが、演出の切れが良いことと、その演出の効果を 120%引き出した主演の新人女優キムダミの魅力により大変インパクトの強い SF アクション映画となりました。

家賃支援給付金及び持続化給付金の申請期限は 2021 年 1 月 15 日とされていましたが、その 1 月 15 日未明に 2 月 15 日まで延長すると発表されました。「期限日当日に延長するなんて」とちょっと不快になりましたが、まあ前向きに考えるようにしました。自粛自粛で業績が大幅に落ち込み、12 月の売上金額で持続化給付金を申請しようとする事業所が大幅に増えたら、1 月 15 日では申請は受け付けきれないだろうと考えたのだと思います。

なお、1 月 31 日までに申請が遅れた理由を届けなくてはなりません。たぶん、1 月 31 日までに残りの申請数を把握して、2 月 15 日までの体制を整えるのだと思います。

小規模事業者持続化補助金の第 4 次公募、2020 年 10 月 10 日に締め切って、12 月に採択の結果が出る予定でしたが、2021 年 1 月に延期され、そして再度 2 月まで延期されました。コロナ特別枠と一般枠とありますが、コロナ特別枠はすでにコロナ対策で支払ったものも補助対象となりますが、一般枠は採択が下りてから購入したものに限られます。事業計画書を提出して 4 ヶ月、つまり購入を 4 か月間もお預けされては事業に影響が出てしまいます。事業計画を提出し、その計画がしっかりと実現できるかどうかを裁定する役所が事業計画を台無しにしても平気というのにはあきれてしまいます。

第 4 次募集で最終となっていました、なぜか現在、第 5 次募集が行われています。締め切りは 2 月 5 日ですが、一般募集はお勧めしません。前述しましたように採択結果がでるのが無茶苦茶遅く、しかもコロナ特別枠に予算をとられて、採択率が極めて低くなっています。事業遂行の足手まといとなります。コロナ特別枠はすでに支払ったものも申請対象になりますから申請する意味はあ

りますが、補助金が下りてくるのは半年先以上かなという状態になります。

2021年度予算では、自治体型持続化補助金と形を変えて募集されるようです。自治体型という限り、自治体ごとの個性がある制度となるのでしょうか。たぶん、採択事務等を各自治体に振ることにより採択事務を速やかに行えるようにするのだと思います。

事業再構築補助金が2021年度予算に計上されます。予算が成立していないので詳細は分かりませんが、一応、目玉の政策とされています。

コロナウイルス対策が混迷しているとの感があります。専門家会議はどのように機能しているのでしょうか。現場の問題意識と政府の政策発表との間に大きな隔りがあるように感じます。

各分野の専門家が各人、勝手に言いたいことを言っているだけでは会議はまとまりませんし、会議には会議資料というものが配布されますから、事前に方向性が事務局によって決められていると考えるのが普通です。役人は仕切りたがる、言い方が悪ければ、会議を円滑に進行させ、短時間で結論が出せるようにすることが担当者の腕と思っています。そのために根回しもし、会議を混乱させる意見は封じ込め、会議資料は持っていきたい結論に沿って提供されることになります。

コンプライアンス重視の時代は、現場で必要だとわかっていても勝手に逸脱すれば、将来、刑事罰すら受ける覚悟が必要になりますし、現場の情報を把握しきれないトップがその規定を是正するまでには日時がかかりすぎます。それがもどかしいギャップと映ります。

以前、岐阜競輪場の不適正経理事件の再発防止のための検証委員会の委員をしました。事の重大性により、すべての議事の内容はホームページで公開するとの鳴り物入りの委員会でした。新聞は市民の声として、「私たちの税金なのだから、しっかりと管理してもらわなければ困る。」とのコメントを掲載していましたが、競輪場は、逆に、毎年、岐阜市に1億円以上の歳入をもたらす優良収益事業体なのです。不正が起きた原因の根幹は、修繕、増強、選手の控室の改善等の費用を迅速に支出したいのに、本庁の契約課を通し、あるものは入札してということをしていると間に合わない、面倒であるとして、それらが必要ない内容に改ざんして契約したというものです。ですから、私は収益事業体を役所と同じ規定で縛り付けていることに本質的な問題があると指摘しました。でも、一般にこのような不適切経理問題は、担当者の厳正な処分と、再発防止のためのチェックの厳格化するというのもっともマスコミが納得いく報告ですから、すみやかにこのスキャンダルを鎮静化するには討議はそちらに誘導されるのかなと思っていました。しかしながら、メンバーの財政部の部長の一言、「次回は契約課の人間も会議の席によんで事情聴取しましょう。」で本格的な検討に入りました。報告も当初の予定より大幅に遅れることになりましたが、それだけ担当部署は本気で対応したと思います。

事業転換して焼き芋を販売したいので試食をして感想を訊きたいと関与先の人がみえました。女子職員の意見を聞こうと振り返ると、女性陣が至福の顔をして食べています。こんなに幸せそうな顔は初めて見ました。女性は焼き芋が好きなんだなあとおつくづく思いました。

こち吹かば にほひおこせよ 梅の花

あるじなしとて 春な忘れそ (菅原道真)

